■特別支援教育だより

い き い き

ＶＯＬ．３２
平成２２年１２月１３日
いわき市総合教センター

■発達障害について（１）

今回は、ＬＤ児への対応について、ご紹介します。

1　学習障害（LD）とは

学習障害はLDと略されることもあり、Learning Disordersまたは Learning Disabilities の略語とされています。全般的な知的発達に遅れはないのに、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力を学んだり、おこなったりすることに著しい困難がある状態をいいます。

2　特別な指導配慮　→　理解してもらいたい内容の提示の仕方を変える。

（１）視覚的に情報を処理することが得意な子ども	（２）聴覚的に情報を処理することが得意な子ども
「ことばより絵による説明」	「絵よりもことばでの説明」
内容を絵や実物で示す。実演してもらうと理解できる。完成したものを見せてしまって、「今日はこういうことをします」と言う。	ことばによって一つ一つ説明してもらうと理解できる。例えば、「一つめには○○をします。二つめには△△をします」というような継次的な説明が入りやすかったりする。（ことばにし直す）

※　日頃の子どもの様子をよく観察し、子どもがどのようなタイプか、どのようなやり方を得意とするかをおさえて指導していく必要がある。
※　Ｋ－ＡＢＣやＷＩＳＣ－Ⅲなどの心理検査の活用も有効である。

3　一般的な指導配慮　→　一般的に「わかりやすい教え方、子どもが取り組みやすいやり方」をすることで、効果が期待できる。

（１）「子どもが能動的に取り組めるような学習」を設定すること。

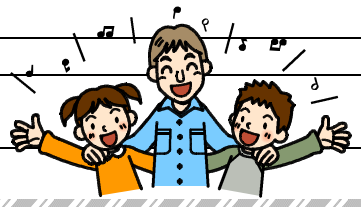
自分から進んで取り組んでいるという気持ちになるような学習の持ち方が大切。

（２）「スモールステップ」も、ＬＤの子どもの指導に際しては重要である。

クリアーしてほしい課題を、その子に応じた適切なステップに細分化し、着実にクリアーできるように導くこと。少し頑張ればできそうな、その子の今の力より、少し頑張ってクリアーできそうな目標を設定することが大切。

（３）子どもに対して「即時にフィードバック」する。

フィードバックというのは、子どもが行ったことに対して、何かしらの評価を返すことである。その際、正解しているか、していないかということだけでなく、「今の発言のこういうところがよかったね」など、具体的にどういうところがよかったのかを即座に返してあげることで、自分の中に良いモデルを積み上げていくことが可能になる。

（４）「繰り返し」の指導を行う。

子どもが知識や技術を獲得し、その知識が安定するまで、繰り返し、繰り返し行うことが重要。